

地震工学会
津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会
第10回研究委員会 議事録

1. 日 時：2014年5月27日（火） 10:00～12:00
2. 場 所：工学院大学（西新宿） 28階第4会議室
3. 出席者：荒木、小川、奥村(H)、後藤、小山(H)、末松、高田、照本、仲村、久田、三上(H)、村上、柳原、山田、山本
4. 資料：
 - 資料10-1 第10回研究委員会 議事次第
 - 資料10-2 第9回研究委員会 議事録（案）
 - 資料10-3 2014年イキケ沖（チリ北部）地震津波避難に関する聞き取り調査（速報）
 - 資料10-4 （欠番）
 - 資料10-5-1 2012年度第3回避難の課題の調査・分析部会（都市避難部会）議事録（案）
 - 資料10-5-2 会長特別委員会 2014年5月12日（理事会資料）
 - 資料10-6 （欠番）
 - 資料10-7 第10回 JAEE 避難雄研究委員会・国際交流 WG 活動状況
 - 資料10-8-1 第1回震災対策技術展（大阪）併催セミナー パンフレット
 - 資料10-8-2 第5回震災対策技術展（宮城）併催セミナー パンフレット
 - 資料10-9 論文特集号 HP 公募文
5. 議事内容
 - 5.1 議事録確認（山本幹事長）
 - ・ 第10回研究委員会の議事録の確認を行った。修正意見はなく承認された。
（関連コメント）
 - ・ 津波避難部会の調査結果のとりまとめについて、ヒアリング調査原本の集まらない分は対象から外す。
 - ・ 市古先生に原本の通し番号を確認していただいた上でもう一度原本と集計表の整合性をチェックする。後藤委員長が一画面でエクセルと PDF を対照できるソフトを配布予定。
 - ・ 地震震工学シンポジウムのOSにエントリーしている2セッションについて都市防災は大原先生に論文投稿のアナウンスをしていただいたが、同じことを市古先生にお願いしたい。
 - 5.2 講演 村上先生 2014年イキケ沖（チリ北部）地震 津波避難に関する聞き取り調査
 - ・ (Q) 揺れたら逃げなさいという教育の方法は？

- ・ (A) 前回のマウレ地震の調査では家族の伝承がなされてきたということであった。学区での教育も最近活発になってきた。最近5年間では100年周期の地震がくると啓発している。
- ・ (A) 揺れたたら逃げろと教育されているが本当に津波がくると思っている人とただルールに従っている人がいる。チリ人は周囲をみながら行動する傾向にある。揺れなくてもサイレンが鳴ったから逃げるという場合もある。ほとんどの人が避難したといっても5%ぐらい避難しなかったら実数としては200~300人となり東日本大震災と変わらない
- ・ (Q) 年齢分布はどうか？
- ・ (A) 3世代家族が多いので子供の数が減少していることはないのではないか
- ・ (Q) 人の流動性はどうか？東日本大震災では新参者が多いところは被害が大きいという傾向があったが。
- ・ (A) 10年前は寒村であったところが経済発展と共に人口が増えているので流動性は高い
- ・ (Q) 堤防で津波を防ぐという考え方はないのか
- ・ (A) ない
- ・ (C) 2010年チリ津波では夜でも逃げている 行政から津波はこないという情報がきているのに逃げている。行政を信頼していない
- ・ (Q) 逃げる場所は確保されているのか？
- ・ (A) 指定されている広域避難場所はない。地域をゾーンに分けて逃げる場所が決まっている
- ・ (Q) 道路に段差ができていたが、がけ崩れの危険性があるのか
- ・ (A) 年間降水率が10%以下の土地であり地盤は固いと聞いている
- ・ (C) ヒアリングでは回答者が自己を正当化することがあるので注意が必要である。今後実施するアンケートでは本当に正しいデータかどうかの判断が一層難しい。物理的事象と社会調査で補っていく
- ・ (C) 大まかな避難の傾向は明らかにできたので、今後はシミュレーションや社会調査で補っていきたい

5.3 津波避難部会報告

- ・ 後藤委員長から以下のコメントがあった。
- ・ アンケート結果を再度ソフトで検証することをもって最終チェックとする。
- ・ 石巻市のポスティング調査結果をチェックする必要がある。PDF化する作業が大変である。部会で打ち合わせたい。

5.4 都市避難部会報告

- ・ 資料 10-5 に基づき久田部会長から報告があった。
- ・ 特別研究委員会「首都圏における地震・水害等による複合災害に対応する委員会」が発足したので首都に関する部分はこの委員会と連動していきたい。京都、大阪、名古屋といった首都以外については都市避難部会でカバーしていきたい。
- ・ 日本地震工学シンポジウム OS（大地震から巨大都市をどう守るか）には是非応募していただきたい。
- ・ 6/11 に都市避難部会開催後に会長特別委員会を開催予定。この委員会からもオブザーバーとして参加していただきたい。
- ・ 会長特別委員会については、首都圏の場合逃げるのが良いのかという大問題がある。避難場所が火災の避難場所なのか水害の避難場所なのかも整理しておく必要がある。避難しないための対策も必要でありこれも含めて検討したい。具体的な対象地域は新宿と北千住としたい。

5.5 シミュレーション部会報告

- ・ 荒木委員から報告があった。
- ・ V&V マニュアルの最終稿をまとめている。
- ・ 3本のソフトでシミュレーションを実施して結果の違いがでてきているので、精査しているところである。
- ・ 次回は 6/6 に部会を開催予定。

5.6 国際交流部会報告

- ・ 資料 10-7 に基づき村上部会長から特集号の論文作成に向けての資料・文献の収集状況について報告があった。

5.7 論文集特集号について

- ・ 柳原副委員長から、資料 10-9 に基づき、HP 公募文について報告があった。
- ・ OS 後の特集号と今回の特集号は論文としての位置づけが同じなので、提出先は著者の判断とする。

5.8 震災対策技術展

- ・ 小山委員から大阪会場の準備状況について資料 10-8-1 に基づき説明があった。
- ・ 後藤委員長から宮城会場の準備状況について資料 10-8-2 に基づき説明があった。

以上